

The 29th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology での発表と
Poster Contest Award 受賞報告

富山大学附属病院 病理部 田近洋介

2025年1月22日から24日にかけて、Hua Hin, Prachuap Khiri Khan, Thailandにて開催されたThe 29th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathologyに参加し発表いたしました。(写真1)本ワークショップは、主にタイと日本の診断細胞病理学の専門家が一堂に会し、最新の研究成果や技術を共有する場ですが、世界中から参加者が集まり、非常に意義深いものでした。当然、全英語による学会です。



写真 1

今回、私は『Development and Accuracy Validation of AI for Pancreatic Cancer Cytology Image Recognition and Pathology Report Prediction』というタイトルで発表を行いました。(写真2)本研究では、膵臓がんの細胞診画像認識および病理報告書生成を支援するAI技術の開発とその精度検証を目的とし、画像認識AIで全体精度94.65%、報告書生成AIで分類精度94.18%という高い成果を報告いたしました。発表後、多くの参加者から質問をいただき、注目の高さを実感しました。

また、今後について期待を寄せていただいた内容のご意見もあり、研究の発展に向けた多くの示唆を得ることができました。

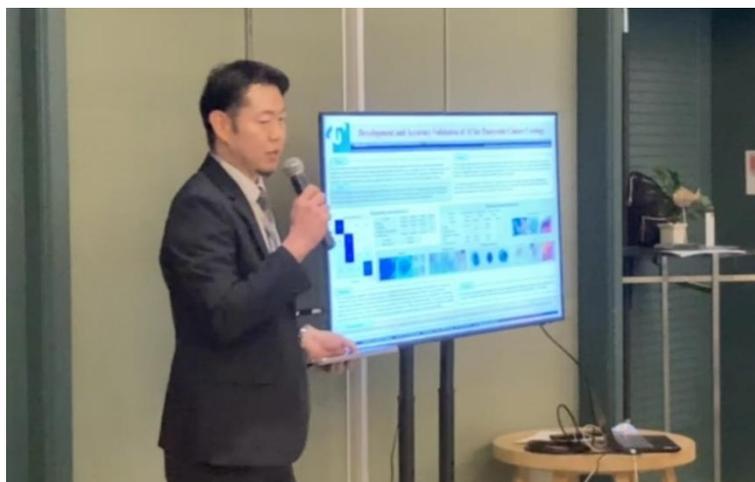


写真 2

さらに光栄なことに、私の発表が、Poster Contest Award (Second Prize)を受賞することができました。表彰状とともに、副賞として3,000 バーツを受け取りました。授与式では、Dr. Samreung Rangdaeng (Thailand) より直接お祝いの言葉と副賞をいただきました。(写真3)



写真 3

また、今回の学会では、最新の診断技術や研究動向を学ぶことができ、非常に有意義な時間となりました。特に印象に残ったのは、「Lymph Node Cytology (リンパ節細胞診)」や「Clinicopathologic Significance of Intracytoplasmic Vacuoles in Malignant Lymphoma (悪性リンパ腫における細胞質内空胞の病理学的重要性)」など、苦手とするリンパ腫の診方を学ぶことができ、日常業務への応用に役立つ内容でした。さらに、「Fine Needle Aspiration and Core Needle Biopsy of the Thyroid: Cytopathologist's Perspective (甲状腺の細針吸引とコア針生検：細胞診専門医の視点)」など、実臨床における具体的な技術を紹介する講演は、診断精度向上のための知識を得られるもので、大変勉強になりました。私なりに今後の細胞診断業務に生かしていきたいと思います。

最終日は帰国までの半日を利用して、国際学会での醍醐味でもある観光をするため、ビーチに行ったり、カフェで過ごしたりしました。また、近くのナイトマーケットで屋台料理を楽しむこともできました。(写真4)



写真 4

最後になりますが、今回の学会参加に際してご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。この経験を糧に日々の業務に励ん行きたいと思います。